

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		08 02 01	中期総合計画主要施策番号		2-02,2-07	担当課	部・課	観光部 観光振興課		
事業名		「信州道楽」誘客促進事業					内線	3542		
							E-mail	kankoshin@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	長野県の特性を生かした旅行商品づくりやプロモーションなどにより、訪れたお客様に「もう1か所」「もう1泊」「もう1コイン」「もう1度」と思われるような新たな旅の魅力を創造・発信し、誘客を図る。								
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 ・観光地利用者数は、平成3年の1億764万人をピークに減少に転じ、オリンピックをはじめとする大規模イベントやNHK大河ドラマの影響などにより前年と比べ増加した年もあったが、依然として減少傾向が続いている。 【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 ・観光需要の変化(成熟化、小グループ化) ・観光環境の変化(観光地間競争の激化) 【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 ・地域の観光資源の発掘及び観光ルートの開発による新たな旅行商品造成を促進する必要がある。 ・「環境と健康」というテーマのような、本県の特性を生かした誘客PR活動を実施する必要がある。								
		事業内容	・地域の魅力ある旅行商品づくり(コンテンツ開発、信州エコ泊"覧会) ・各種プロモーションの展開 ・信州"道楽"周遊事業 ・「信州・天地人」のPR							
			実施期間	H19 ~		根拠法令等	「観光立県長野」再興計画			
	成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
新たな旅の魅力を創造・発信し、誘客の促進を図る。 (参考) (H24年度までに観光地利用者数を1億人以上にする。)		・観光モデルプランを新たに30プラン提案すること。 ・信州エコ泊"覧会登録宿泊施設を新たに60施設増やすこと。			・観光モデルプラン提案は26件、新たな信州エコ泊"覧会登録施設数は47であり、ともに目標を下回った。 (参考) (H20観光地利用者数は、8,676万人であり、対前年比95.6%となり前年を下回った。)		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下			
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	40,000	38,087	20,689	国庫・県単	県単		
	決 算 額 (B)		千円	40,000	35,490		実施方法	直接、負担金		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	40,000	35,490	20,689	歳出節別内訳等	・報償費:297 ・使用料:83 ・旅費:167 ・負担金:21,151 ・需用費:5,336 ・役務費:7,358 ・委託料:1,098		
	概 算 人件費	従事する職員数	人	3.00	3.00	2.00	(単位:千円)			
	概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	61,420	56,937	34,987				
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	観光モデルプラン提案件数		件	52	26	40				
	信州エコ泊"覧会登録施設数(新規分)		件	140	47	50	・メディアトリップの実施 24回 ・商談会の開催 7回 ・パンフレット制作(4種) 57万部			
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・観光旅行者の県内での主な交通手段が、クルマが8割を占める中で、ETC利用による高速道路料金の引き下げを誘客の好機として、県・市町村・観光事業者が必要な役割分担をし、効果的に展開していく必要がある。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
課題の総括		・本県の特性を生かした地域の観光資源を、効果的なプロモーション・情報発信により、積極的に長野県を旅行先に選んでいただけるような、新しい旅の魅力を創造していく必要がある。 ・21年4月から始まる観光イベント(善光寺御開帳など)を活用し、訪れたお客様に「もう1ヶ所」「もう1泊」「もう1コイン」「もう1度」と思わせる県内周遊事業を積極的に展開する必要がある。								